

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	一般社団法人 金剛会
公演団体名	一般社団法人 金剛会

内容
<p>①始まりの挨拶                      ②「能」・「狂言」とは？                      ③絵本読み聞かせ「鞍馬天狗」                      ④謡(うたい)を体験してみよう                      ⑤能面をつけてみよう                      &lt;休憩&gt;(10分)                      ⑥「能」・「狂言」の舞(まい)や所作を全員で体験してみよう                      ⑦能「鞍馬天狗」を演じてみよう                      ⑧質疑応答                      ⑨終わりの挨拶                      [所要時間90分(途中 10分休憩含む)]</p> <p>▼公演当日のワークショップ                      *狂言「柿山伏」について                      *能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～</p> <p>&lt;感染症対策&gt; 下記の対策を講じて上記項目を実施する。                      ・指導者はフェイスシールドまたはマスクを着用する。                      ・児童と出演者の距離を2メートル以上確保する。                      ・謡を体験する場面は、全員での一斉の体験を見送り、一部の児童によりグループに分けて体験し、そのほかの児童はその様子を見学する。                      ・学校の希望により、参加児童数を調整する。                      ・状況により京都・金剛能楽堂からリモート開催する。</p>

タイムスケジュール (標準)					
▼10:00 開始の場合					
到着	搬入・仕込み	ワークショップ	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～9:45	10:00～11:30	10分	11:30～12:15	12:15
▼13:30 開始の場合					
到着	搬入・仕込み	ワークショップ	内休憩	撤去	退出
11:15	11:15～12:30	13:30～15:00	10分	15:30～16:15	16:15

**派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください**

能楽師:5名(シテ方4名・狂言方1名)、スタッフ:1名 計6名

**学校における事前指導**

- ・感染症対策についての事前指導。
- ・謡の体験者選定をお願いしたい。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	一般社団法人 金剛会
公演団体名	一般社団法人 金剛会

演目
<p>①能のお話                      ②狂言「柿山伏」の上演                      ③狂言「柿山伏」について                      ④能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～                      &lt;休憩&gt;(10分)                      ⑤能「鞍馬天狗」の鑑賞にあたって                      ⑥能「鞍馬天狗」の上演                      ⑦能楽師との交流の時間～感想と質問～                      ⑧終わりの挨拶                      [公演時間90分(途中10分休憩含む)]</p> <p>&lt;感染症対策&gt; 下記の対策を講じて上記項目を実施する。                      ・鑑賞者間の距離を適切に保って実施する。                      ・司会、解説者は鑑賞者との距離を2メートル以上確保した上で、フェイスシールドまたはマスクを着用する。                      ・狂言、能の上演時は、鑑賞者と演者の距離を2メートル以上確保の上、地謡方はマスクを着用する。                      ・能「鞍馬天狗」に参加する子方役はフェイスシールドとマスクを着用し、演出を変更し人と人との距離を保てるようにする。                      ・能「鞍馬天狗」で地謡を体験する場面は、全員での一斉の体験を見送り、代表の児童により体験し、そのほかの児童はその様子を見学する。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者:21名、スタッフ:1名、舞台・運搬スタッフ:4～5名 計26～27名

タイムスケジュール (標準)					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～11:30	13:30～15:15	10分	15:20～17:20	17:20時

### 実施校への協力依頼人員

搬出入時及び会場設営時に2, 3名のお手伝いをお願いすることがあります。

### 演目解説

#### ▼狂言「柿山伏」について

典拠:「宇治拾遺物語」の「実ならぬ柿の木」に説話がみられる。

あらすじ:

山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、喉が乾いてしまい、ふと見上げると見事な柿があることに気づく。木の下から落とそうと試みるが、中々巧くいかなかったので、木に登って柿を食べてしまう。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた持ち主に当たり、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまう。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、最後に鳶は飛ぶものだ、と言われ、飛んではみるものの、大怪我をして悪事が露呈してしまう。自分の罪を覆い隠そうとする山伏の滑稽な姿を、面白おかしく描いている。

#### ▼能「鞍馬天狗」について

作者:宮増某(一説に世阿弥とも)

典拠:源義経の幼少期を題材とした能。「平治物語」の牛若丸の條、幸若の「未来記」などの伝説から取材したものと考えられる。

あらすじ:

鞍馬山西谷の花見の招待を受けた東谷の僧は、稚児たちを連れて西谷へ行き、花見の宴を開く。そこへ一人の見知らぬ山伏が侵入して来たので、僧たちは座を立てて帰ってしまう。沙那王(牛若丸)は、一人居残って山伏に対し好意を示す。山伏は沙那王を連れて花の名所を見せて廻った後、実はこの鞍馬山に住む大天狗であることを明かし、明日の再開を約して僧正が谷へ飛び去る。翌日沙那王は、約束の場所に来て待っていると、大天狗が輩下の天狗を従えて現れ、沙那王に兵法の奥義を伝え、平家を滅ぼす時に力を添えることを約束して、夕影の暗くなった鞍馬山の杉の梢に飛び去って行く。

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 狂言「柿山伏」を鑑賞後、特徴的な所作などを全員で体験します。
- 能「鞍馬天狗」へ稚児役として一部の児童・生徒が舞台に立ち、全員が鑑賞位置から地謡役として参加します。

### 児童生徒とのふれあい

- 当日出演する能楽師が子どもたちとコミュニケーションをとりながら解説します。
- 鑑賞後に能楽師との交流の時間を設けます。子どもたちが鑑賞を発表しあったり、能楽師からも感想を伝え、子どもたちからの質問にも答えます。